

固有種が多く分布し、生物多様性の保全上重要な地域でありながら、脅威にさらされていて絶滅危惧種が多い地域は「生物多様性ホットスポット」と呼ばれます。奄美群島は、固有種や絶滅危惧種が多数分布する日本の中の生物多様性ホットスポットと言えます。

固有種の確認種数マップ

マップの上段は日本の固有種の分布種数を2次メッシュ(約10×10kmのメッシュ)で集計したものです。

「脊椎動物」のマップは、環境省が実施した自然環境保全基礎調査の動植物分布データから、情報の充実している哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水魚類を対象に日本固有種を抽出したものです。「維管束植物」のマップは、国立科学博物館を中心とした自然史系博物館収蔵の維管束植物標本データベースから、国立科学博物館作成の固有種目録を用いて、日本固有種を抽出し、分布種数を集計した情報を用いています。

脊椎動物の固有種は、本州、四国地方などの山地周辺部と沖縄・奄美地方に集中分布地域が見られます。

維管束植物の固有種は、関東近辺の伊豆箱根富士地域、茨城県、上信越、南北アルプス、白山や、紀伊半島南部、兵庫県・岡山県などの関東・中部・関西地方のほか、四国地域や沖縄・奄美地域、東北・北海道・九州などの山岳部にも多い地域が見られます。

絶滅危惧種の確認種数マップ

マップの下段は環境省レッドリストに掲載されている、日本の絶滅危惧種の確認種数を2次メッシュで集計したものです。

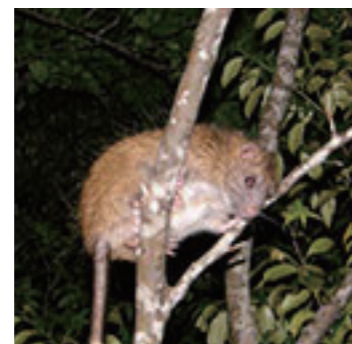
自然環境保全基礎調査の動植物分布データ、農水省の田んぼの生きもの調査などの全国ベースの生物分布データから、種分類体系の変更などを考慮しながら該当する分布データの有無を整理し、分布記録が確認された動物679種、維管束植物840種(合計1,519種)の種数を2次メッシュ単位で集計した情報を用いています。

脊椎動物、維管束植物の両マップとも、本州では、都市近郊の里地里山や水辺に、絶滅危惧種が集中している地域が目立ちます。また、奄美群島を含む南西諸島や小笠原諸島には、多くの固有種が生息・生育しており、人間活動や外来種の影響に対して脆弱であるため、絶滅の危機に瀕した動植物が多い地域となっています。



トクノシマエビネ(ラン科)

絶滅危惧 I B 類
(環境省レッドリスト 2020)
湿潤な森の中に生育する多年草で、徳之島固有の地生ラン。



ケナガネズミ(ネズミ科)

絶滅危惧 I B 類
(環境省レッドリスト 2020)
体長 20 ~ 30cm と日本に生息するネズミの中で最も大きく、奄美大島、徳之島、沖縄島にのみ分布する。樹洞を利用し、夜行性。



◀ 環境省レッドリスト及び絶滅危惧種についての説明はこちら
(環境省いきものログレッドデータブック・レッドリストの概要)

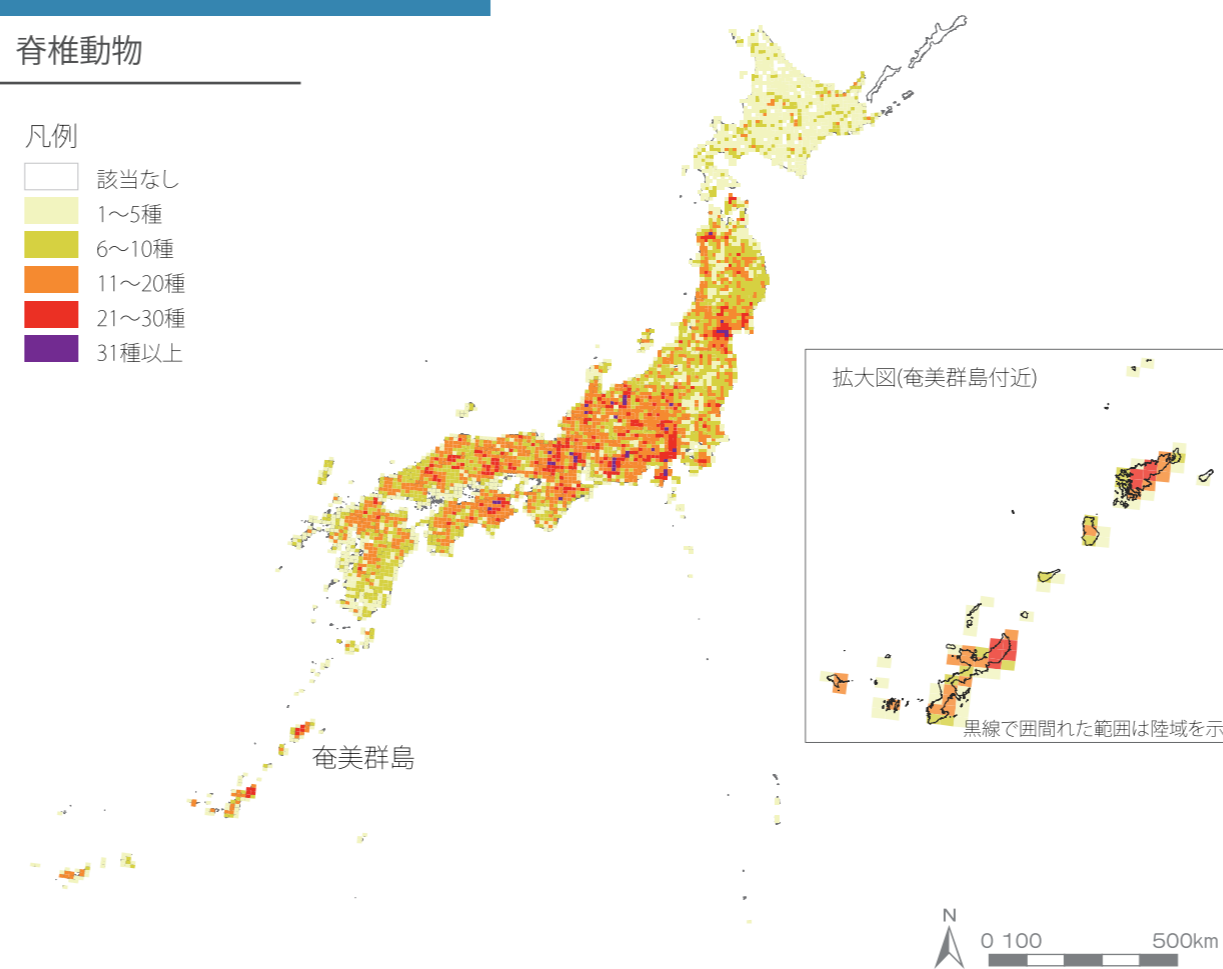
【出典】・固有種(脊椎動物及び維管束植物) 環境省生物多様性ウェブサイト(9日本固有種の確認種数)
(<https://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/map/map09/index.html>) を加工して作成
・絶滅危惧種(動物及び維管束植物) 環境省生物多様性ウェブサイト(8-1,2 絶滅危惧種の確認種数)
(<https://www.biodic.go.jp/biodiversity/activity/policy/map/map08/index.html>) を加工して作成
・背景図 「国土数値情報(行政区画データ)」(国土交通省)
(https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v3_1.html) を加工して作成

固有種の確認種数マップ

脊椎動物

凡例

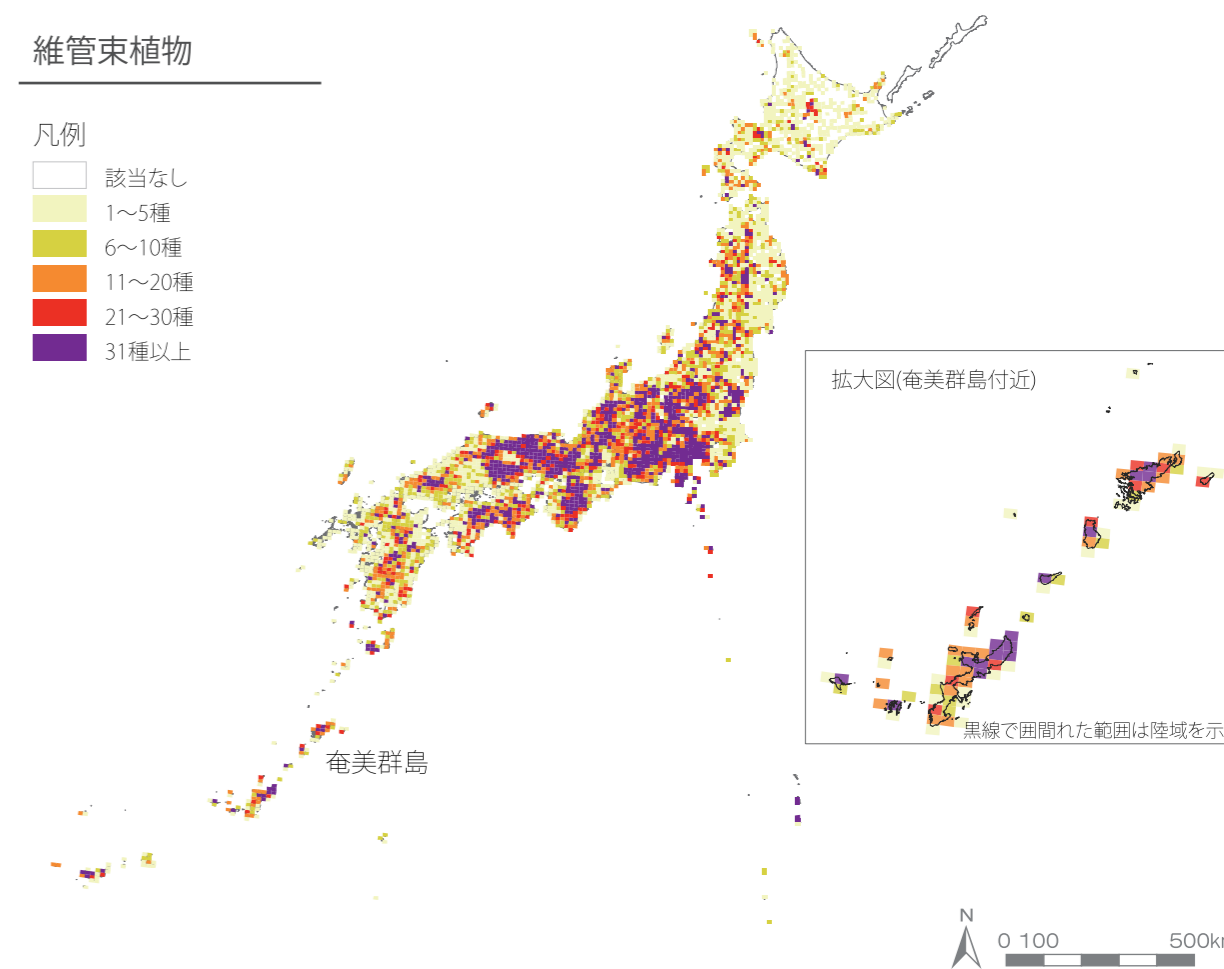
- 該当なし
- 1~5種
- 6~10種
- 11~20種
- 21~30種
- 31種以上



維管束植物

凡例

- 該当なし
- 1~5種
- 6~10種
- 11~20種
- 21~30種
- 31種以上

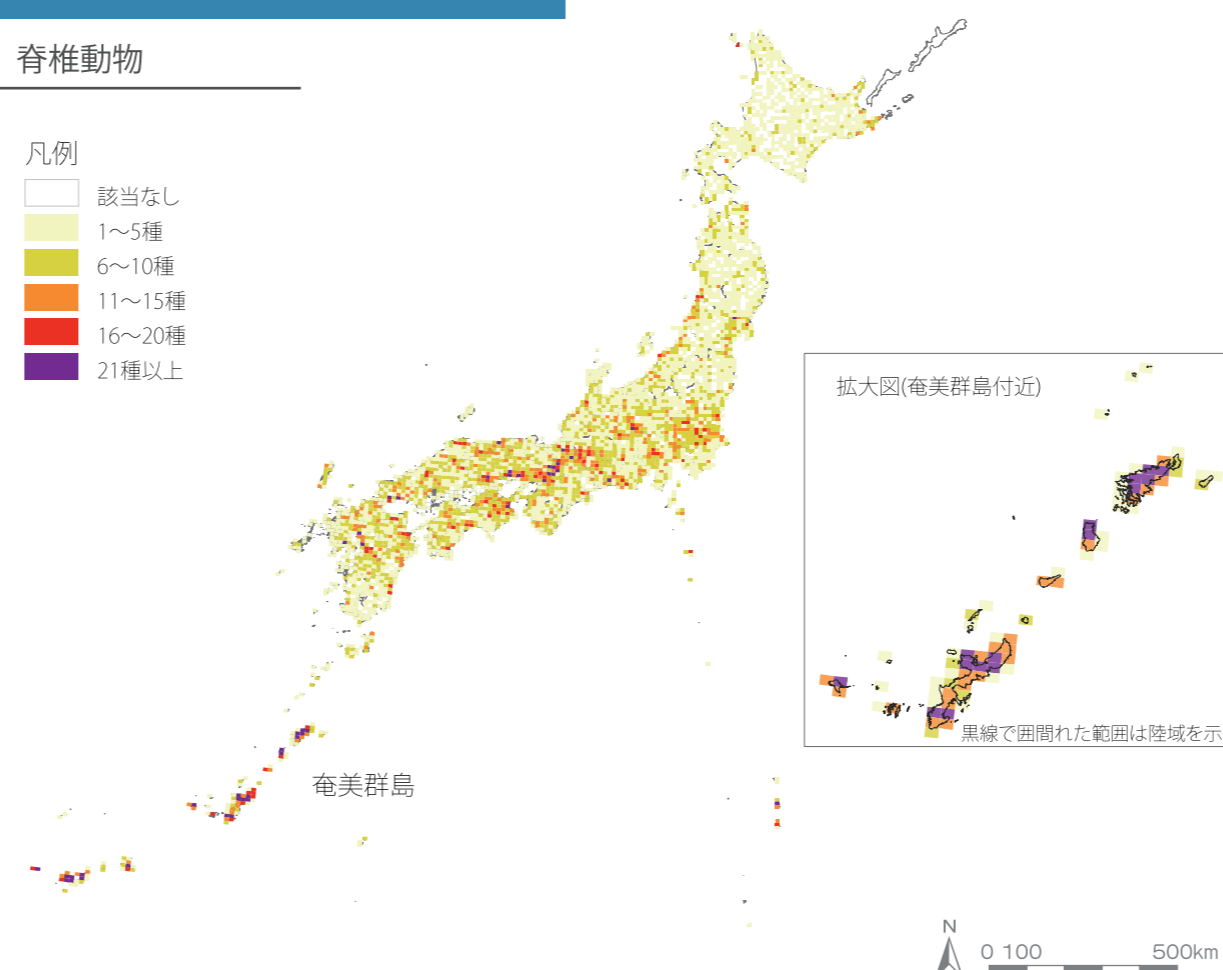


絶滅危惧種の確認種数マップ

脊椎動物

凡例

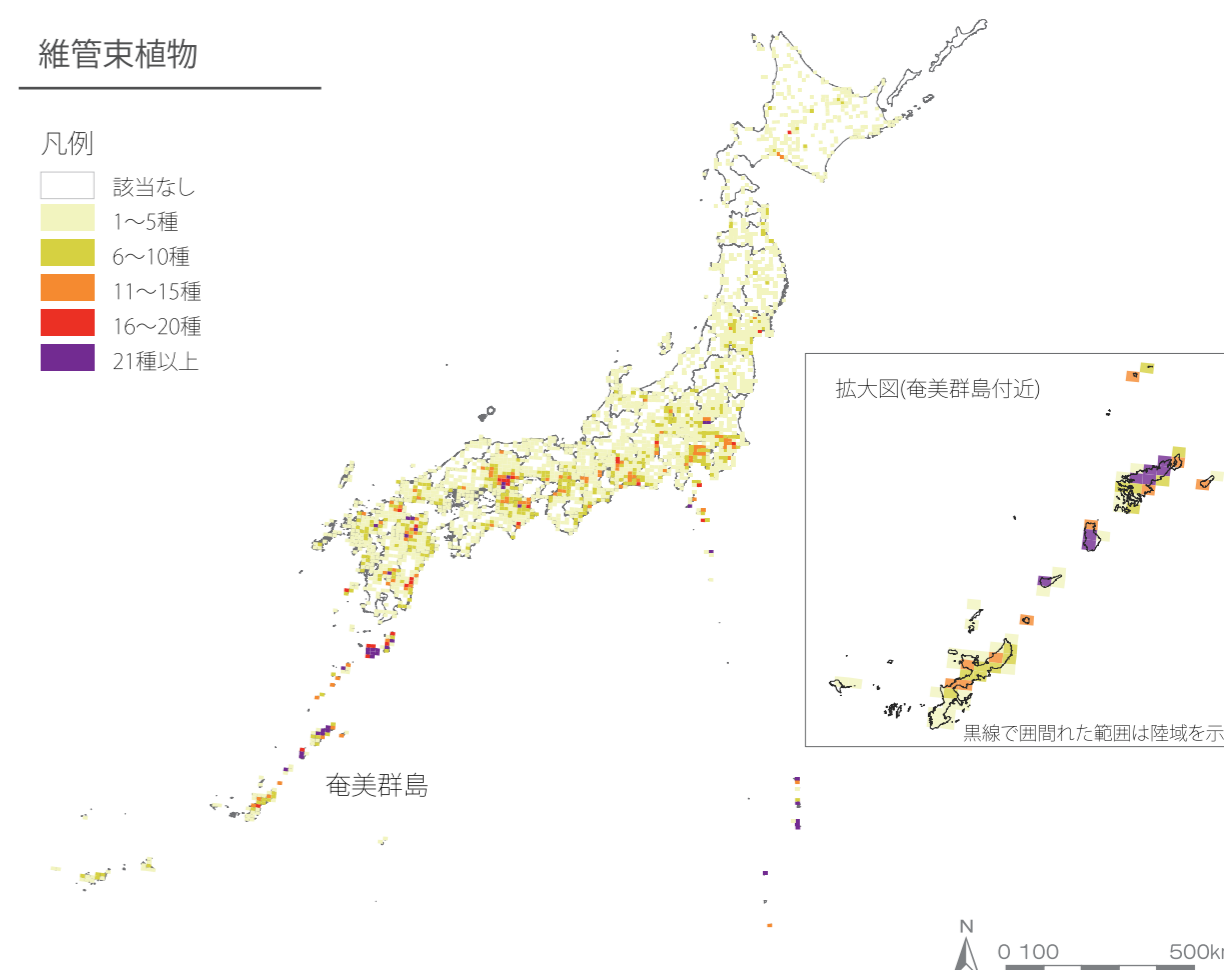
- 該当なし
- 1~5種
- 6~10種
- 11~15種
- 16~20種
- 21種以上



維管束植物

凡例

- 該当なし
- 1~5種
- 6~10種
- 11~15種
- 16~20種
- 21種以上



*測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R 5JHs 80